



# 良識あふれる世界の解説者は、 続ける値打ちを知る男

ヤツ

建都1200年の幕開けとともに、新聞でも雑誌でも京都見直し論が盛んだ。そんななかで面白くないのが「古都」という名称。古都とはすでに活動を終えて、死んだ都のことである。近代都市としての条件を備え、今も活発に機能している都市は、ローマにせよ、パリやロンドンにせよ、過去にいかなる栄

誉の時代があっても、決して京都とは呼ばれない。そんな言葉がありがたがって登録している場合ではないだろう。くたばれ古都論争。いでよ新たな京都の創造力。具体的にどうすれば、明日の京都はよくなるのか。村田社長の提案する三つの方法は、実にわかりやすく適切な。

## 民主主義では、 何もできない

御所 KBSの「どうなる京都」にご出演中ですが、いまの若い人たちの意見はどうなんだろう。

村田 たえば修学旅行で全国の生徒が京都にやって来る。3日間の自由行動のうち、1日目はタクシーに分散して市内を見物するけど、2日目は電車に乗って神戸のハーバーランド、3日目は大阪で海遊館見物というのが実態です。京都の町にもっと魅力のあるものをつくっていかねければ、という意見がとても多くありました。

御所 誰か責任をもって「俺に任せておけ」というのがいないと…。

村田 ワンマンではいけません。傑出した天才がきちんとしたプランをもって実行しなければ町づくりはできません。戦後40年で京都に生まれたのは国際会議場と映画村だけでしょ(笑)。

御所 たいへんな数のファックスや電話が集まっていますね。表現できる環境だけを整えてあげて、あとの口出しはしないと、というのが、番組のスタンスです。

**GOODSENSE**

**村田純一**

■プロフィール 1935年10月19日京都生まれ。同志社高校から慶応義塾大学法学部に学び、アメリカのパブソン大学大学院では経営学を専攻する。60年に村田機械(株)入社。70年より同社代表取締役社長。同年に村田海外留學奨学会を設立。84年から93年まで京都経済同友会代表幹事(現在は同特別幹事)。





## 「伝統と創生」という言葉に囚われるな。

御所 それで「伝統を守れ」は片腹痛い。京都の人間は、何も過去の番人じゃありませんからね。

村田 もともと先見性のある町なんです。そして何度も危機に瀕しては、そのたびによみがえってきた。天皇が公家を連れて東京へ行かれたときには、町はもぬけのからになってしまったでしょ。

御所 ふつうならつぶれてしまいますよね。

村田 その時に巨額を投じて平安神宮を建て、時代祭というビッグ・イベントを催した。そして、疏水と発電所をつくった。これは、京都があと100年続く基礎をつくったわけ。偉かったと思いますよ。ただ、この戦後の40年だけ、京都は眠っていた。

御所 京都らしからぬ京都だったんですね。だけど、考えてみれば1200年の内のたかが40年なんだから、どうにでも変わる。

村田 日本人はだいたいメダカのように群れる傾向がありますが、京都だけはすこし違う。日本が動くときには、いつも京都は時代の先取りをしてきたんです。

御所 明治維新はもちろん、戦後共産化しかけたのも、そこから方向転換したのも、京都がいちばん早かったですね。

村田 閉鎖的だということの間違いですね。そもそも平安京を建てた桓武天皇の幹部は、3分の1が渡来人だったそうですから。

御所 今の市役所や府庁で、それだけの比率の外国人は考えられませんね。ところで現在の京都では、伝統産業に対比される最先端のハイテク関連産業が隆盛で、そうした企業のトップは世界に顔を向けていて、京都など眼中にないというような意見がありますか。

村田 伝統とハイテクの対比は、おもしろくてわかりやすいんですが、言葉だけが独り歩きする傾向があるだけに、あまり言わないほうがいいんじゃないでしょうか。企業の出発点はみな小さな個人で、発展するかどうかは時代のニーズに負うところが大きい。

御所 むしろ、互いのコンセンサスが重要だということですね。

村田 双方が知恵を出し合って、京都の将来をオープンでフレキシブルに、何か新しいものを創造していく方向で考えるべきですね。

御所 知恵のある人は知恵をだし、汗をかく人、金のある人のそれぞれが、それぞれのモノを持ち寄って、明日の京都づくりに参加す

## 景観とは、スカイラインのことで。

村田 地方の時代が言われて久しいですが、大阪なんかも企業はほとんど本社を東京に移してない。だけど、地方は東京にまざる力もつてないといけません。昔から京都は、寺でもなんでも、日本中の金と能力のある人を集めて、できあがってきたんです。

御所 優秀な人間に舞台を貸してきたわけですね。

村田 これは私の個人的な意見ですが、三つの具体的なポイントさえ押さえればいい。まず一つめは交通の利便性。京都は端から端まで10kmほどの小さな町なのに、交通のインフラが悪いために端から端まで行くのに40分もかかってしまう。

御所 飛行機に乗ればソウルまで行けますね。具体的な方法としては、やはり地下鉄でしょうか。

村田 2本じゃ話になりません。せっかく乗り入れている私鉄を生かせばいいんです。たとえば阪急が円山公園の下を通って山科まで行くとか、二条城まで通っている地下鉄を白梅町まで延ばして嵐電とドッキングさせるとか。

御所 それは工事キロ数が少なくてすむ割に、ネットワークとしてはたいへんな広がりですね。

村田 二つめは町がきれいであること。京都は日本海まで山が続くせいもあり、鴨川や白川、高瀬川などの川が実にきれいです。140万の町に透き通った水が流れるというのは世界でも珍しいことで、ほんとうに宝として守っていききたい。言うのも情けないことですが、ゴミを捨てんことですね。

御所 空き缶を捨てるのは、旅行者じゃなく住民に多いですね。それも9割は行儀がいいはずなんです。あとの1割が捨てる。

村田 いっそ空き缶を捨てたら10万円とか、粗大ゴミなら100万円なんて厳罰主義をとってもいいと思いませんか。

御所 シンガポールみたいに。

村田 国全体は無理でも京都なら許される、と思うんです。それから景観とは何かの問題ですが、私はスカイラインだと思っんです。

御所 たしかに水平線や山の稜線、建物の屋根が湖に映える姿。人の視点は上を向きましますね。

村田 いらかのカーブなんて実に美しいですよ。ところが戦後の日本は、俺様だけが冷暖房の利いた部屋でTVを觀られればいい、とばかりに見苦しい物をすべて屋上へ上げてしまった。だから見上げるとデコボコで、窓を開けると互いにガラクタを見るようなもんですな。

御所 空き缶を捨てるのと同じセンスですね。

村田 これから建てる建物は、屋根をきれいにするところから始めるべきですね。そうすれば1300年には見違えるような町に生まれ変わりますよ。

御所 次の時代のための種を蒔く。言葉は簡単ですが、会社も個人も「自分さえ生き残れば」の敵しい時代のなか、村田社長のように長期的な視点で、着実に奨学生制度を続け、さらに建都1200年記念事業の一環として、京都市コンサートホールに15億円の金を出し、というのは素晴らしい実行の方法ですね。

村田 全部やめてしまいたいのが本音なんです(笑)、苦しいときこそ続けたいとね。



(御所氏へのメッセージ)  
**御所光一郎**「クラブフェイムプロデューサー。村田純一氏より」

「最初はエエッ?...?と思いました。そのへアといいスタイルといい。だけど話してみると常識も豊かで、センスのいい、センシティブな方ですね。10年間京都発の雑誌を続けられているのには感心しました。」